

# 南西諸島・九州南部の在来カンキツの独自性・多様性・有用性

植物資源科学プログラム・果樹園芸学 山本雅史

<https://www.agri.kagoshima-u.ac.jp/agri/agri0008/>

## 研究の背景および目的

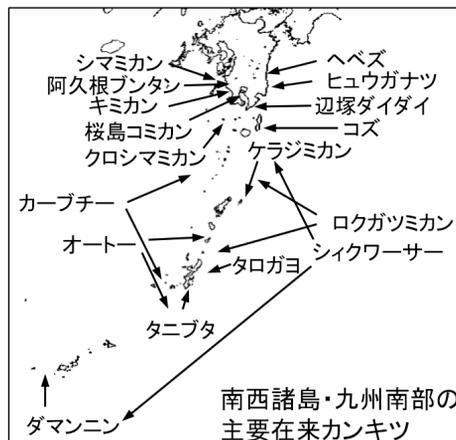
南西諸島や九州南部では多数の在来カンキツが栽培されてきたが、新品種への改植などのため減少が続いている。これらは単なる食品ではなく、文化的にも重要で貴重な資源でもある。本研究では遺伝資源的特性と機能性の観点から鹿児島在来カンキツが備える付加価値を見出し、これらの高度利用化の促進、遺伝資源の保全への貢献を目的としている。

## おもな研究内容

- ・長島から与那国島までの各地において、在来カンキツの分布や生育状況を調査し、主要なものについては農学部附属農場唐湊果樹園で保存した。
- ・DNA分析などによって、在来カンキツの同定、親子関係や類縁関係などを解明した。これらの成果によって、本地域の在来カンキツが世界的にも貴重で重要なカンキツであることがわかった。
- ・主要な在来カンキツであるケラジミカンや辺塚ダイダイについては、詳細な果実特性を調査し、これらの今後の利用に関する情報を得た。
- ・生活習慣病やアルツハイマー型認知症の予防効果が認められるポリメトキシフラボノイド含有量を広範囲に調査した。その結果、シクワサーだけでなく、黒島ミカン、カーブチー、桜島コミカン、ポンカン、タンカン果実の含有量も高いことがわかった。



ケラジミカン



在来カンキツのポリメトキシフラボノイド (PMF) 含量	
	PMF含量 ( $\mu\text{g/gFW}$ )
シクワサー	3695
黒島ミカン	2231
カーブチー	1434
桜島コミカン	2073
ポンカン	2627
タンカン	2896
ケラジミカン	625
対照	
ウンシュウミカン	293

## 期待される効果・応用分野

本研究によって、南西諸島・九州南部の在来カンキツの分布や特性、その有用性を明らかにすることができた。この知見は、本地域における在来カンキツの保全と利用促進、産業や文化の発展に利活用することが可能である。既に、一部の地域ではこれら成果を基として在来カンキツを核とした六次産業化も進められており、地域振興に貢献している。